

令和5年第6回産業建設常任委員会 要点記録

開閉会日時	令和5年7月21日（金曜日）			開会	9:56	会議場所		別海町議会 委員会室2・3		
				閉会	11:06					
委員の出欠	4番	貞宗 拓雄	出席	5番	伊勢 徹	出席	7番	横田 保江	出席	
	11番	今西 和雄	出席	12番	松原 政勝	出席				
出席説明員	産業 振興部	産業振興部長		農政課長		商工観光課長		水産みどり課長		
		佐々木栄典	出席	皆川 学	出席	田畑 直樹	出席	小野 武史	出席	
		商工観光課主幹		農政課主査		農政課主査		農政課主査		
		武田 妙子	欠席	金澤 亮太	欠席	西郷 博之	欠席	山下 真弘	出席	
		水産みどり課主査		水産みどり課主査		商工観光課主査				
		古里 達也	出席	岩光 信幸	出席	松本 芳樹	欠席			
	建設 水道部	建設水道部長		建設水道部次長		管理課長		事業課長		
		伊藤 一成	出席	外石 昭博	出席	松田 勝広	出席	佐竹 和仁	出席	
		上下水道課長		上下水道課技術長		建築住宅課主幹		事業課主幹		
		千葉 宏	欠席	袴田 充輝	欠席	篠田 敬介	欠席	廣島 静治	出席	
		事業課主幹		上下水道課主幹		管理課主査		管理課主査		
		前道 陽司	出席	福原 仁史	欠席	木村 洋平	出席	植松 拓也	出席	
		建築住宅課主査		事業課主査		上下水道課主査				
	大西 廣和	欠席	板垣 正博	欠席	池田 友和	欠席				
	農業 委員会	農業委員会事務局長		農業委員会主幹		農業委員会主査				
		川畑 智明	出席	大山 晋作	出席	志度 正勝	出席			
	委員外の出席	議長	西原 浩				合計	1名		
	事務局職員	主幹	入田 浩明				合計	1名		
傍聴者数	議員	0名	報道関係者	0名	合計	0名				

令和5年第6回産業建設常任委員会 要点記録

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 11番 今西	9:56 開会
	出席委員5名、委員外1名、会期1日
委員長 11番 今西	挨拶
	【農業委員会所管事務調査】
農業委員会局長 川畑	挨拶及び概要説明
委員長 11番 今西	議事2 その他
	(1)農業委員会の体制について
農業委員会局長 川畑	・資料により説明
	6月定例会で同意をいただき、昨日辞令交付及び第1回農業委員会総会を開催して、会長、会長代理及び各地区の推進委員長等を決定したので報告する。 会長及び会長代理は委員の互選により決定。 また、別海町は広大な面積を有しており、農地等の利用の最適化を推進することを目的に農業委員会内に4つの地区の推進委員会を設置しており、委員長及び副委員長をそれぞれ互選により決定。 任期は令和5年7月20日から令和8年7月19日の3年間。 委員のうち、新人委員11名、女性委員が3名、50歳未満の青年委員が2名、中立委員が1名。
委員長 11番 今西	農業委員会 10:01 終了 休憩
委員長 11番 今西	10:03再開 委員長挨拶
	【建設水道部所管事務調査】
建設水道部長 伊藤	挨拶及び概要説明
委員長 11番 今西	(2)道路整備について
事業課長 佐竹	・資料により説明
	未舗装の路線数は235路線、約357km。 張付戸数や公共性、地元からの整備要望の有無及び就農年数等の項目を総合的に判断して整備路線を決定している。 令和5年度は、砂利道路の改良舗装工事9路線、道路の改修工事5路線、舗装修繕工事6路線の計20路線。 詳細な実施個所については、位置図のとおり。
委員長 11番 今西	質疑
委員 4番 伊勢	・尾岱沼地区の工事が無いが、必要性がないのか、地元からの要望がないからなのか。
事業課長 佐竹	・今回の資料は、現在継続中の部分もあわせて、令和5年度の工事となっている。 市街地等においては、令和6年度以降もまだ計画等もあるので、決して要請がないからというわけではなく、今年度はちょっと尾岱沼地区がないといった状況。
委員 5番 貞宗	・近日中に調査してほしい箇所がある。 国道243号線と道道と町道との交差点の路面状況が非常に悪い。
事業課長 佐竹	・早急に現地を確認して状況把握し、開発や土現と協議したい。
委員 12番 松原	・舗装の修繕工事については、計画に沿ってやっているのか。
事業課長 佐竹	・舗装の修繕工事に関しては、平成26年に約450kmほど路面性常調査を実施し、市街地については、令和3年度に実施している。 その調査後に、損傷の状況により整備する路線を選定しているが、急速に舗装の損傷が進行してきた部分については、その都度、随時、修繕を加えている状況。

令和5年第6回産業建設常任委員会 要点記録

委員	12番	松原	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、農家の機械が大きくなり、交差できないような状況にあるが、その辺は調査しているのか。
事業課長		佐竹	
委員	4番	伊勢	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の幅に関しては、調査していないので、改修する時に合わせて、交通量等を見ながら幅員の拡幅も併せて行っている。 ・4号のカーブのところの改修工事はやらないのか。 ・床丹港線については、補助事業で一部実施していましたが、カーブのところは、調査結果ではそこまでの損傷が倍ということで、表面的な補修になっており、その個所の補修は計画に入っていない。
事業課長		佐竹	
委員	4番	伊勢	<ul style="list-style-type: none"> ・道道の部分の路面がひどい状況だが、どうにかならないのか。 ・毎年、町の方から北海道に要望しているが、この個所ははいついていない。
事業課長		佐竹	
委員長	11番	今西	<p>暫時休憩 10:21</p>
委員長	11番	今西	再開 10:22
委員長	11番	今西	<ul style="list-style-type: none"> ・町道の舗装する当初からの決め事ってどうか、戸数が減ったりとか環境が変わった時には、その辺のところも加味された中で取り組むのか。 町道整備事業ってという項目については、町の単独の予算で回しているのか。 ・建設水道部の方で考えている部分に関しては、やはり住宅の張りつきが第1優先であると考えている。 やはり、住宅の張りつきがない路線に関しては、やはり若干ちょっと後手に回るような状況になっている。 あとは、それぞれの補助事業によっていろんな基準があるので、そういった部分を満たせる路線、かつ住宅が張りつきが多い路線という部分から優先的にやっていくというのが今の考え方。 町道整備事業については、一般財源を充当してやっているところだが、その中でも一般財源と起債を活用している事業もある。
事業課長		佐竹	
委員長	11番	今西	<ul style="list-style-type: none"> ・要するに、住宅の張りつき状況が1番大きな状況だとお話しされたが、離農も進んだりして住宅がないが、そこを利用する頻度が高い路線もかなり見受けられると思う。 機械も大型化している状況の中で、そういったことも条件として取り入れて対応していくという考え方もやっぱり持っていたらいいと思うが。
事業課長		佐竹	
委員長	11番	今西	<ul style="list-style-type: none"> ・整備に関しては、住宅の張り付きというのが根幹になってくる部分にはなるが、離農ともあり、営農されていないが住まわれている路線とか住宅がない路線もある中では、交通量といった部分も一つの条件になってくるので、大型車両の交通量が多いとか、それに伴って交差ができないとか、そういった部分も路線の選定の検討の材料の一つにはなっている。 しかし、住宅がない路線に関しては、補助事業の採択も厳しいという部分があるので、現在は住宅張りつき路線を対象に進めているところ。
委員		一同	
委員長	11番	今西	<ul style="list-style-type: none"> ・他に何かあるか。
委員		一同	<ul style="list-style-type: none"> ・なし
委員長	11番	今西	建設水道部 10:30 終了 休憩
委員長	11番	今西	10:33再開 委員長挨拶
産業振興部長		佐々木	【産業振興部所管事務調査】 挨拶及び概要説明
			<ul style="list-style-type: none"> ・えびまつりの来場数は33,600人。 今後は9月に産業際、10月にあきあじ祭を予定している。

令和5年第6回産業建設常任委員会 要点記録

委員長	11番	今西	<p>議事1 所管事務調査について</p> <p>(1)みどりの食料システム戦略について</p> <p>・資料により説明</p> <p>農業分野における事業内容については、メタン発酵バイオ液肥の利用促進。バイオ液肥等について、肥効分析、散布調査、実証。検証結果を用いた普及啓発資料の作成・配付、バイオ液肥等のサンプル提供及び研修会の実施。</p> <p>事業期間は、令和5年4月13日から令和6年3月31日。</p> <p>・資料により説明</p> <p>林業分野においては、カーボンニュートラルに向けた森林・木材のフル活用によるCo2吸収と固定の最大化を図ることを目的としている。</p> <p>全ての取組を本町において実施することは非常に難しいと考えているが、現状において取り組んでいる内容、また今後取り組んでいく可能性のある事業について説明する。</p> <p>基本的には、森林のCo2吸収向上を図るため、適切な森林整備を今後も実施していく必要がある。</p> <p>また、林業成長産業化を図るため、林業機械の導入支援、また自動化を推進する必要があり、本町においても、林業機械導入費用の一部について、森林環境譲与税等を活用しながら支援をしている。</p> <p>また、ICT等の活用による効率化を図るため、本町においてもドローンを今年度導入する予定としている。</p> <p>今後も、森林環境譲与税を上手に活用しながら、カーボンニュートラルに向けた森林のCo2吸収向上に向けた取組を推進していきたい。</p> <p>その他の取組として、通常の標準木に比べ成長やCo2の吸収量が高いなど特徴があるエリートツリーなどの活用については、本町においても既にクリーンラーチを一部活用しているところであるが、全道的に配分される本数に限りがあるため、全体の造林面積対しては、2から3%の割合にとどまっているのが現状にあるが、今後、さらなる取組が進んでいくものと考えている。</p>
農政課主査		山下	
水産みどり課長		小野	
委員長	11番	今西	
委員	4番	伊勢	
農政課長		皆川	
委員	4番	伊勢	
農政課長		皆川	
委員	4番	伊勢	
農政課長		皆川	
委員	4番	伊勢	
産業振興部長		佐々木	

質疑

- ・事業実施主体である別海バイオガス発電(株)は、どこの会社なのか。
- ・株主が4名おり、筆頭株主がJFE環境テクノロジーが70%株を取得し、会社の運営を行っているところ。
- ・その他は、別海町、中春別農協、道東あさひも株主になって会社を構成している。
- ・主体は、JFE環境テクノロジーが中心となってやっているということか。
- ・JFE環境テクノロジーが主体となってやっている。
- ・前にバイオガスとは違う、何とかというプラントをやって、うまくいかなかったから、前のシステムとまた違うやり方でやってるということか。
- ・同じようなシステムでやっているのが、中西別にある資源循環センターで、それは町で所管している施設になるが、そちらの方は、非常に経営は順調にうまくいっている状況にはある。
- ・今回、事業実施主体となるべつかいバイオマス発電については、どちらかといえば、難しい形なのかなという中でやっている。
- ・水産系もバイオガスに取り組んでいただきたいなという思いがあるが、それよりも先に家畜の排せつのバイオガスの方から最優先ということか。
- ・そういう話も過去にはあったそうだが、なかなか難しいこともあり、今の体制になっている

令和5年第6回産業建設常任委員会 要点記録

	<p>と思うが、今後、町もカーボンニュートラルの宣言をしているので、いろんな面でいろいろ協議していく場面が多くなると思うが、今の状況の中では、それぞれの施設で処理していくのかなと思いますので、ひとつで処理できるっていうのは理想的な形だが、ちょっとそこまでは至らないのかなっていうふうな状況にある。</p>
委員 5番 貞宗	<p>・中西別の施設は、新聞にやめるような話で、とりあえず西部地区終わって、開発の事業でスライストアが出来次第、廃止したいというような文面が書いてあったが、その辺はどうなのか。</p>
農政課長 皆川	<p>・中西別の方は、運営している方たちが農家さんということで、やられてるんですけども機械の設備更新もしているが、躯体もかなり老朽化が進んでくると思われる中でずっと続けていかどうかという確認した中で、構成する農家さんたちが、別海北部の国営かんばいの別海北部に事業参加できた暁には、ふん尿処理を運用するシステムができて上がるので、そちらに乗り替えたいということで、中西別の方は廃止の方向というふうな流れになっていく状況となっている。</p>
委員長 11番 今西	<p>・先ほど、譲与税を利用してという話もあった中で、以前、利用に当たってはいろんな基準があって、それをうまく利用する方法が難しいということもあるって話もあったが、その辺はどうなのか。</p>
水産みどり課長 小野	<p>・令和元年度から始まったが、初期は確かに使われるものが非常に限られているということの中で動いており、限られた事業にしか充ててなかったが、来年度から森林環境税が始まるに当たり、譲与税の使われ方については、割と林業振興全般にしっかりと説明ができるのであれば、活用しても構わないというような見解等もあるので、我々も事業やる際には、その辺をしっかりと道なりに確認をしながら事業を進めていきたいと。 また、なるべく使えるのであれば、広く活用していきたいなというふうに考えている。</p>
委員長 11番 今西	<p>・譲与税に対しての使い方の基準を見直してほしいというそういう意見も出ているのも事実だが、説明があったようなことで広がっているという認識でいいか。</p>
水産みどり課長 小野	<p>・使われ方についてのもうちょっと幅広がっている意見が一つと譲与税の配分等について、いろいろと非常に声が大きくなって出ているところ。 譲与税については、国からの配分、それから道と市町村に配分され、市町村に配分される割合というのが、私有林の人工林面積が約5割、残り2割が林業の就業者数、残り3割が人口割によって市町村に配分がされる中で、例えば、人口が少ないが木が多いところに対して、その人口割の3割部分が大都市に持っていかれるということの中から、今言われているのはこの市町村に対する配分の割合を変えてくれないかという意見が出ているところ。</p>
委員長 11番 今西	<p>・エリートツリーということで、今後、植栽を中心という話もあって、別海町でも取り組んでいるって話だが、どのぐらいの割合で進んでいるのか。</p>
水産みどり課長 小野	<p>・実際の割合としては、約2割程度で本当に何千本しか来ないような状況。 もともと全道の中で配分が決められるものですから、何ぼ要望しても実際その要望している本数がこないというのが現状。 ただ、道の方もクリーンラーチの増産に向けた取組が非常に進んでいるが、やはり10年ぐらいかかるスパンのため、見込みでいくと令和12年ぐらいいまでは増産に向けてまだまだ課題があるかなという状況なので、恐らくそれがクリアになってくれば、苗木についても割とクリーンラーチに置き換わっていくと。 そうすれば、二酸化炭素の吸収力も高く成長が早いということもあるので、そういった形は国の方も一緒に進めていくような状況になっている。</p>
委員長 11番 今西	<p>・昔からカラマツの植樹を推進して、ある程度成熟したらそれを材にしてっていう一石二</p>

令和5年第6回産業建設常任委員会 要点記録

		<p>鳥の考え方もあったような気がするが、今回のこの取組は、あくまでも脱炭素っていうのが大きなメインになるのか。</p> <p>・基本的に森林整備については、切って、植えて、それを加工して材にすると。</p> <p>決して、二酸化炭素吸収だけではないので、このクリーンラーチとかエリートツリーというのは、非常に木としては真っすぐ大きく伸びるという特徴もある。</p> <p>大きく育つ特徴があるので、もちろん二酸化炭素を吸収しますが、木というのはある程度年数がたつと、吸収が弱まりますので、そういった際には、切ってしっかりと材木として利用されていくという特性も含んでいるのがクリーンラーチでありエリートツリーという形になっている。</p>
水産みどり課長	小野	
委員長	11番 今西	・他に何かあるか。
委員	一同	・なし
委員長	11番 今西	議事2 その他
産業振興部長	佐々木	(2)産業の動向について
		・資料により説明。
委員長	11番 今西	閉会挨拶
委員長	11番 今西	11:06 閉会